



自然と暮らしの道しるべ

石垣島平久保半島インタープリテーション全体計画

Ishigaki Island Hirakubo Peninsula Interpretation Plan

Ver. 1.0

はじめに

沖縄県石垣島の北東部に伸びる平久保半島には、
石垣島南部のにぎやかな観光地とは異なるゆったりとした空気があります。



半島の中央に伸びる山上からは東西の海岸と雄大なサンゴ礁をひとめに眺め、
島を吹き抜ける風を味わうことができます。

山裾には牧場とサトウキビ畑が穏やかに広がります。

夜になればサガリバナが甘い香りを放ち、星空が天の川を描き出します。

5つの集落にはそれぞれの成り立ちがあり、独自の祭りが 있습니다。

そんな平久保半島の“あたりまえ”は、

他のどこに行っても見つけられない“特別”です。

この冊子では、各集落でたくさんの方から伺ったお話を元に、
地域の自然や文化、生業をいくつかのストーリーとしてまとめました。

平久保地域だけの特別な“あたりまえ”をみんなで共有し、
大切に次の世代につないでいく一助となることを願っています。



目次

2 はじめに

3 目次

- インタープリテーション全体計画とは

4 平久保半島について

5 暮らしと文化のキーワード

6 自然のキーワード

7 私たちは、誰に何を伝えればいいのだろうか？

8 平久保半島 自然と暮らしのストーリー

- 海岸と漂着物
- サガリバナと保全活動
- 地質と地下水
- エコロードと安良村
- 昔の暮らし
- 歴史と祭事
- 野生生物
- 体験型観光
- 夜と星空

26 もっと知りたい方へ

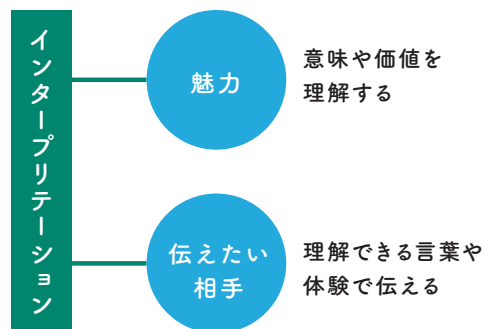
- 西表石垣国立公園について
- 生きものとの関わり方について
- 平久保半島自治協議会について
- 関連リンク

インタープリテーション全体計画とは

この冊子のサブタイトルは「平久保半島インタープリテーション全体計画」です。「インタープリテーション」とは、地域に息づくストーリーや魅力、価値を、わかりやすい言葉や体験活動を通して伝える営みです。

来訪者や次世代に効果的に伝えるための方策を、包括的かつ体系的にまとめたものが「インタープリテーション全体計画」です。近年、各地でも作成が進められていますが、石垣島ではすでにホテルや観光事業者グループが独自に計画を作成するなど、先進的な取り組みが進んでいます。

このストーリーブックは、平久保半島の皆さんが地域の魅力を語り、伝える際に活用できることを重視して作成しました。



東シナ海と太平洋に囲まれた
生命たちが息づく場所

北から平野、平久保、久宇良、
明石、伊原間の5つの集落があります。
畜産やサトウキビ、野菜生産などの農業、
豊かな自然を味わう観光業などが行われています。

生物多様性が豊かな地域でもあり、
陸や海の多くが西表石垣国立公園の保護地域に指定されています。



暮らしと文化のキーワード

キビ倒し

サトウキビの
収穫作業は
冬の風物詩。



パラグライダー

南東のゆるやかな
夏の風で舞い上がる。



マユンガナシ

まじめに働けば果報は
必ずやってくると伝えに
来た神の使者。



田植え

陸稲が多かった。
東海岸には多良間
島の人を通った多
良間田がある。



リュウキュウイヌ (琉球犬)

古来より沖縄で猟犬
として飼育されて
きた地犬。

豊年祭

五穀豊穡に感謝
し、来年の豊作
を祈願する祭。



明石エイサー

沖縄本島からの入植と
ともに伝えられた。



獅子舞

悪霊を払い五穀豊穡と
無病息災を祈願する。



ミルク様

海の彼方の楽土か
ら豊年と平和を運
んでくる神様。

浜下り

旧暦3月3日に女
性が健康を祈願し
海で身を清める。



フーカキサバニ

帆に風を受けて進む
伝統木造船。



ビーチクリーン

冬の季節風とともに
どんどん流れ着く海
ごみから、美しい海
岸を維持しライフス
タイルを見直したい。



投網

ミジュンなどを
捕まえる。



イザリ

冬の大潮の干潮
時に行われる伝
統的な漁。

自然のキーワード



南十字星

1～6月に南の水平線近く。見えるのは1時間ほどで時期により見える時間が変わる。

天の川

夏は銀河系の中心部の星が濃い部分。冬は外側の薄い部分が天の川となって見える。

ウミガメの産卵

夏が産卵のピーク。明かりがない静かな浜が大切。



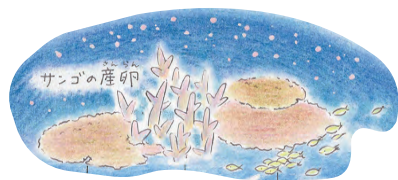
ヤシガニ

平久保半島には捕獲全面禁止の保護地区がある。



サンゴの産卵

5月頃の大潮の夜に一斉産卵がある。



カンムリワシ

特別天然記念物。幼鳥は羽が白くて美しい。冬場によく観察できる。



リュウキュウイノシシ

琉球列島に分布しているイノシシの亜種。



ツチトリモチ

12月頃森の中で見られる寄生植物。



野菜・熱帯果樹

季節により様々な野菜や果物が収穫される。

ミジюн

ニシンの仲間の小さな魚。夏から秋に大きな群れで泳ぐ。



季節風

梅雨明けを告げる夏至南風（カーチバイ）。



南風とともにアカショウビン。



セミ

その年最初に鳴くのがイワサキクサゼミ。



梅雨明けとともにリュウキュウクマゼミ。



新北風（ミーニシ）は秋の気配とサシバの渡り。

月桃

梅雨入りのころ白い花がこぼれるように咲く。



オカガニ

夏の大潮の夜、放卵のために海に向かう。



テッポウユリ

夏の海に近い陰しい岩場に咲く。



アーサー・モズク

春はおいしい海藻の季節。



サガリバナ

夏の夜にむせかえるような香りとともに開花。



オオゴマダラ

日本最大級の蝶。黄金の蛹で石垣市の市蝶になっている。



アオリイカ、クビシミ（コブシメ）

イカ釣りは冬場がベストシーズン。



私たちは、誰に何を伝えればいいのだろう？

まだまだ知らないこともあるんだな

長く住んでいたけれど知らなかったこともある。
歳を重ねるとこれまでとは違うことにも
興味を持つようになるね。
自分たちが暮らすこの地域のことをもっと学ぼう。

もっとゆっくり見てほしい…

駆け足で通り過ぎる観光客。
ゆっくり過ごすことでこの地域の良さがわかるのに。
この地域にはこんな魅力があるのだけど、こんな過ごし方もあるのにな。
私たちしか知らない魅力を、観光で訪れる人にも伝えたい。

あんなことがあったんだよ

いろいろ苦勞もした。それでも楽しいこともあった。
一人一人の歴史の上に今の暮らしがあるのだと思う。
新しくこの地で暮らし始める人がいるのなら、
そんなことも伝えたい。

ここは君たちのふるさと

この地域には多様な伝統がある。
誇れる文化がある。豊かな自然がある。
少しずつ変化しながらも、後の世代まで続いてほしい。
ここがふるさとになる子どもたちに、伝えたい。

守ってほしいこともある

魅力を感じて訪れる人が増えるのはいいのだけど、困ることもある。
入ってはいけない場所もあるし、静かにしてほしいときだってある。
守ってほしいことを、それに気づいていない人がいたら伝えたい。

変わらないことも、新しいことも、 伝え続けよう

このページをめくると、平久保半島のかげがえのない魅力を
めぐるストーリーが始まります。
このストーリーブックに完成はありません。
これからも語り合って、書き加えていきましょう。

● 海岸と漂着物

残したい風景や思い出が、 波音とともにそこにある

波打ち際を歩く。

静かなサンゴ礁、白い砂浜、蝶の舞う海岸林。

水平線の向こうには知らない世界があり、
後ろには自分の暮らしがある。

生活の場であり、祈りの場であり、
学びの場であり…

みんなで楽しむこともあれば、
自分だけの時間を過ごすこともある。
見渡しても人工物が見えないことが私たちの誇り。



想像することで、 海から流れ着く様々なものの向こうに 世界が見える

打ち上げられたサンゴ

平久保半島の東海岸には、浅瀬や海岸に大きなサンゴの岩がある。多くはハマサンゴなどの巨大なサンゴ。これらを海の中から打ち上げたのは、津波や台風による波の力。過去の災害の痕跡なのかもしれない。



海を漂う生物に出会う

強い風の日には浮遊性の生物が流れ着くことがある。カツオノカンムリ、カツオノエボシ、ギンカクラゲ、ルリガイ、アサガオガイ…。普段は目にすることができない海を旅する生き物たちを探しに行こう。

人工物が目に入らない自然海岸は、 それだけで価値がある



海岸を清掃する

平野や東海岸など漂着ごみが特に多く流れ着く海岸がある。そのままにしていると景観も悪く環境にもよくない。再流出すると違う場所での問題となる。できる限り掃除したい。一人で静かに。ときには大勢で楽しく。ビーチクリーンは新しい文化となる。

海岸清掃しなくてよい未来を考えながら
みんなで言う海岸清掃は楽しい

● サガリバナと保全活動

夏の夜、みんなでそっと観察したい、 守り育てた森の花

サガリバナは夏の夜に花を咲かせる。

赤、白、ピンク、少しずつ異なる色の花。

甘く強い香りが森に満ちる。

手軽に楽しめるサガリバナの観察は、

自然に興味を寄せるための入り口。

地域の人みんなで時間をかけて

大切に育てたサガリバナ群落。

たくさんの人に見てほしい。

そっと見守るように観察してほしい。



自然を楽しむために、 私たちが季節や時間を合わせる必要がある

サガリバナ

サガリバナ科の常緑高木。6～8月頃、夜になると花を咲かせ明け方に散る。強い香りが森に満ちる。花の色も赤、濃いピンク、ピンク、ワインレッド、うす黄緑、オレンジなど様々。



親しんでもらいたい自然もあれば、
そっとしておきたい自然もある

サガリバナ群落の保全活動

2016年(平成28年)に西表石垣国立公園が拡張され、平久保と久宇良のサガリバナ群落が国立公園に加わった。自生のサガリバナの大群落は、石垣島と西表島にしか分布しておらず、全国的にも貴重。

平久保のサガリバナ群落は、地域の人や多くのボランティアにより守り育てられてきた。アクセスが容易で、観光や環境教育などに利用しやすく、自然に親しむ入り口として大切にしたい場所。保全していくためには人の手をかけて維持する必要がある。

久宇良のサガリバナ群落はアクセスが難しく道に迷うこともあるので、中には入らないように。そっと遠くから見守ることも自然を守るためのひとつの手段である。

そして、伊原間にもサガリバナの群落がある。近くには川が流れ様々な生物がおり自然観察に適している。どのように活用していくか楽しみながらみんなで考えていきたい。

人が手をかけることで、
生き生きとする自然もある

● 地質と地下水

雨が染み込む岩の上に、 私たちの暮らしが乗っている

平久保半島は2億年前の古い岩石でできている。

その上に12万年前のサンゴ礁の岩石があり、

それらの上に人の暮らしがある。

サンゴ礁の岩は穴だらけ。

雨が降れば染み込んで地下水となる。

地下水は2億年前の岩盤とサンゴ礁だった

岩の間から染み出し海へ流れ出す。

2億年前と12万年前、そして今の私たちの暮らし。

その間を縫うようにして水は巡る。

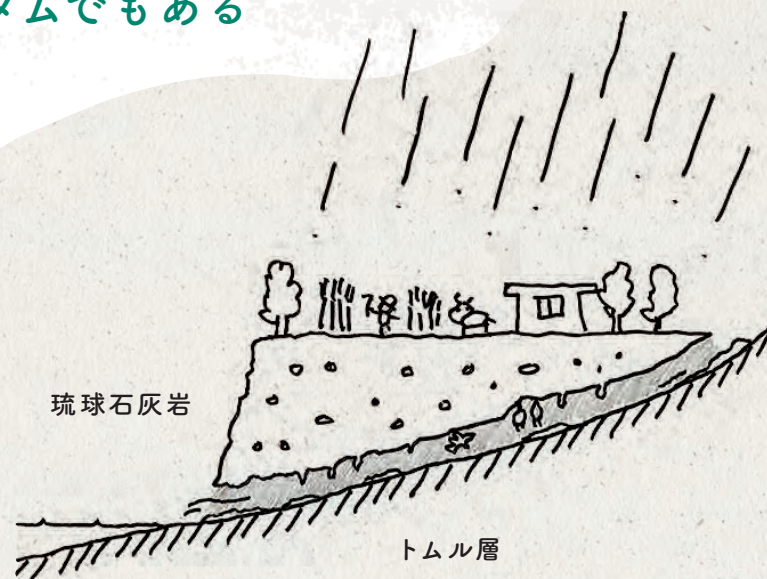


琉球石灰岩は、染み込んだ水をろ過し蓄える
天然の浄化槽でありダムでもある



琉球石灰岩

数十万年前のサンゴ礁が陸地になってできた岩石。サンゴ礁だったので上面が平らで広く人が利用しやすい。比較的新しい岩石なので穴が多く水をよく通す。



地質や地形の上に人の暮らしがある



鍾乳洞

サビチ洞や平野洞などの鍾乳洞は、地下水が琉球石灰岩とトムル層の境界を流れることによりできた。鍾乳洞を探検することでその様子を観察することができる。



トムル層

平久保半島の骨格となる2億年前のとても古い岩石。硬くて水を通しにくい。トムル崎などの海岸や平久保灯台などで観察することができる。

降った雨は岩盤に染み込むことで、
長い時間をかけて海へ流れ着く

● エコロードと安良村

自然と歴史、過去と現在が 織り成す私たちの原風景

平久保半島の東海岸に沿う

「平久保半島エコロード」。

自然と歴史に触れることができる道。

広大な牧野とその向こうに広がるサンゴ礁の風景。

かつて多くの人々が暮らしていた安良村は、

遺跡として森の中に眠り、

半島をまたぐ峠道が今の暮らしと

歴史の向こうをつないでいる。

急ぎ足は望まない。



昔の人たちががんばって生きたことの延長に 私たちの今の暮らしがある

平久保半島エコロード

石垣島の東海岸を伊原間から明石を
経由し最北端平野まで続く総延長
13.6kmの環境共生型道路。雄大な風景
を楽しめる放牧場や森林部を抜ける
道は自然景観を優先し基本的に未舗
装路となっている。



不便さを楽しむ 心の余裕が必要な場所もある



安良越地(やすらくいつ)

安良村と平久保村を行き来
するために使われていた峠道。
現在もかろうじて歩くことが
できる。ルート上にはたくさん
の巨木が点在する。



安良村跡

最盛期には500人近い人々が
暮らしていた安良村。1771年に
起きた「明和の大津波」により
壊滅的な被害を受けた。生き残った
人々が村の再建に力を尽くしたが
1912年に廃村となった。現在は
安良村跡の御嶽(おん)が文化財
として残っている。

自然の中に埋もれ行く歴史を思いながら、
その自然を守り残していきたい

● 昔の暮らし

繋いでいきたい、あの頃のこと、 みんなでがんばったこと

昔は自給自足があたりまえ。

みんなまじめで働き者だった。

どの家も豚、ヤギ、ニワトリを飼っていた。

学校に馬に乗って行くこともあった。

養蚕も盛んだった。日本一の品質だったと思う。

自分たちで育てた大豆と麦で作った
味噌が忘れられない。

昔のように暮らすのは今では厳しいけれど、

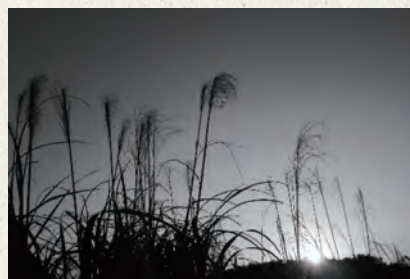
昔のような暮らしには新しい価値があるのかもしれない。



何もないように思えるこの地域にこそ、 学べることがたくさんある

開拓の暮らし

台風、旱魃、イノシシ被害、開拓当時の厳しい生活を、相互扶助・ユイマール精神で乗り越えた。大人も子どもも役割があり、苦しいながらも活気があった。



試練をもたらす厳しい自然から、 感謝の気持ちを学ぶことができる

平久保半島の歴史

- 1951年 伊原間へ自由移民が入植
- 1955年 明石へ349人が入植
- 1956年 久宇良へ254人、吉野へ108人、平久保へ151人が入植
- 1957年 平野へ80人が入植

助け合って暮らした経験は、
今の時代にまた輝く

● 歴史と祭事

隣り合う多様な伝統が、 新たな文化を紡ぎ出す

古くから続く村、平久保、伊原間。

戦後の入植による村、平野、久宇良、明石。

祭りや祭事、地域の決まり事、

それぞれの村に歴史があり、誇りがある。

多様な伝統文化が隣り合い、

ひとつながりの故郷が紡がれてきた。

そして今、新しい文化を育て、

子孫に誇れる伝統とする時期が来た。



地域行事は工夫をしながら残し、続けることで交流の場ともなる



フナクヤ海神祭

現在の伊原間集落一帯にはかつて船越という村があり、東と西の海の間を、船を担いで越えて漁をしていたことに由来。船越漁港で旧暦の5月4日に豊漁と海上安全を祈願して行われる。



豊年祭

豊年祭は五穀豊穡を感謝し、来夏世（クナツユ）の豊作、地域住民の健康祈願をするお祭り。平久保半島では伊原間、平久保で行われる。



受け継いだ伝統の上に新たな文化が育まれる

伊原間のマungaナシ (真世加那志)

昔、昼夜の別なくよく働く夫婦がいた。暗い夜も働くのでマヤ（猫）のように目が光りものが見え、この世の人間ではないのだらうと畏敬の念を抱かれていた。その後マヤ夫婦は忽然といなくなったが、まじめに働けば果報は必ずやってくることを伝えに来た神の使者として信仰されるようになった。



明石のエイサー

明石は琉球政府の計画移民による集落。入植後に始まったのが本島の様々な地域のチャンプルーエイサー。一時期は「明石エイサー祭り」として大きく開催していたが、現在は先祖供養に徹した地域行事として位置づけている。



集落ごとにそれぞれの歴史があり、特徴的な文化がある

野生生物

隣り合うように、 いつでもそこにある自然

遠くからカンムリワシの鳴き声が聞こえる。
また今年もアカショウビンが渡ってきた。
サンゴが卵を産んだにおいが鼻をかすめる。

晩ごはんの後にサガリバナの花でも見に行こうかな。
今夜くらい、ウミガメが卵を産みにきているかもしれない。

そういえば森の中のあの大きな木は
今もまだそのままかな。
そろそろ違うセミが鳴き出した。
ツチトリモチが土の中から顔を出している頃だな。

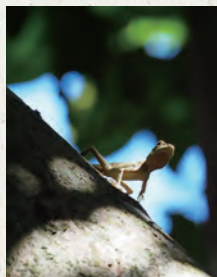


野生生物による生態系と共存できる暮らしが財産である

平久保半島には
多様で希少な野生生物たちが
暮らす自然環境がある

野生生物たちとの共存

特別天然記念物カンムリワシを始め多様で希少な動植物があふれる平久保半島。私たちの生活と寄り添うように野生生物たちも暮らしている。石垣島でヤシガニ保護地区が設定されているのは平久保半島だけ。



外来種が
平久保半島の生態系を
脅かしている

外来種の問題

自然が豊かな平久保半島にも外来種が侵入している。グリーンイグアナ、インドクジャク、オオヒキガエル、シロアゴガエル…。外来種はもともたにいる生物の生態系を破壊する。今いる外来種の問題に関心を抱き、新たな外来種を増やさないようにしたい。

体験型観光

体験してほしい、いつもの風景、 あたりまえの自然

雄大な風景や普段は見ることのない動植物。

生き物に触れ、風に乗れ、波に揺られる。

日々の暮らしから解放され、

また日常へ戻るための元気をもらう。

この半島のいつもと同じ風景や、

当たり前の自然に価値がある。

体験を伴う観光を提供して、

私たち自身がそのことに気づかされた。



この地域の観光資源は、 小さな悩みを忘れ、日常に立ち向かう活力を与えてくれる

体験型観光で得られるつながり

良い景色の所で記念写真を撮り土産を買い次の場所へ移動という従来型の観光に対し、その地域の自然や文化について体験を通してより深く知るのが体験型観光である。

伝統的な船に乗る。在来種の馬に乗る。空から景色を俯瞰する。トレッキングで自然に触れる。夜の生き物観察。サンゴ礁で泳いだり潜ったり。星空を静かに眺める。伝統工芸に挑戦する。地域の食材を楽しむ。

時間をかけて楽しさとともに、その地域のことを知ることによって、日常に戻った来訪者と地域との間につながりが生まれる。私たちの活動を応援してくれるファンを増やしていくのが体験型観光である。

来訪者の応援が、
この地域の自然や文化を
守ることにもつながる



観光が元気であることは平和であることの証
たくさん楽しんでほしい

● 夜と星空

天の川、夜の暗さが照らし出す

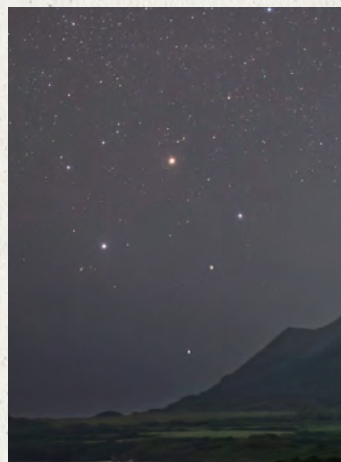
「天の川って本当にあったんだ！」
物語の中だけのものだと思っていた、
と都会から来た人は言う。

夜、見上げればあたりまえに天の川。
夜空の星を浮かび上がらせることが
できるのは、地上の暗さ。

夜が普通に暗いことに価値がある時代。
得ようとしても得られなくなったものが
ここにはまだある。



一年を通し天の川が見え、
南十字星も見ることができる
環境を維持したい



南十字星(みなみじゅうじ座)

国内で観察できるのは八重山諸島だけ。1～6月で南に開けた場所なら
平久保半島でも観察できる。何時ごろかは八重山南十字星時計を参考に。

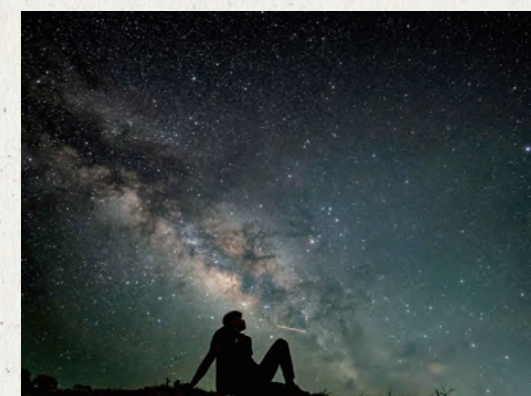
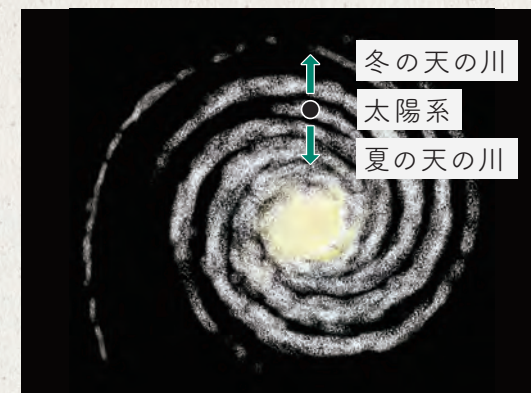
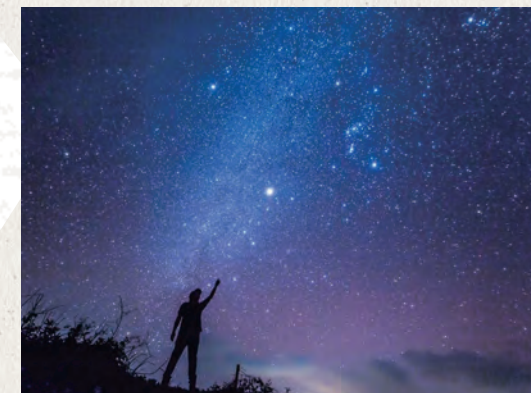
便利さとともに街が明るくなるにつれ、
暗いことの価値は上がっていく

夜が暗いからこそ、
星空が観察できる

冬の天の川、夏の天の川

円盤状の銀河系の中に太陽系はあり地球がある。天の川は実は内側から
見ている銀河系の星々。冬は銀河
系の外方向を見ることになるので
星の密度が薄い。

夏は銀河系の中心部を見ているので
星の密度が濃くなる。冬でも夏でも
天の川を見ることができる平久保
半島の夜の暗さ、そのものに価値が
ある。



もっと知りたい方へ

平久保半島自治協議会について

平久保半島の5公民館を中心として2024年に設立された協議会です。平久保半島共同憲章にのっとり、平久保半島の歴史や文化、自然資源を活かした平久保半島ブランドを確立することを目指して活動しています。

平久保半島共同憲章

第1条(目的) 平久保半島の自然環境と景観を保護し、未来の世代にその美しさを引き継ぐことを目的とします。

第2条(星空保護) 平久保半島の星空を保護するため、光害を増やさない取り組みを行い、濃く巨大なアーチを描く天の川が見える世界的にも稀な環境を未来に繋ぎます。

第3条(統一景観の維持) 平久保半島に進出する企業に対して、看板の色、街の色、建物の高さを統一する事を推奨し、地域全体の景観を保護し平久保半島ブランドの創出を企業と共に目指します。

第4条(持続可能な地域発展) 自然環境と調和した持続可能な経済活動を推進し、地域の発展に寄与します。

第5条(地域住民の利用権保護) リゾート開発により地元住民が排除されることなく、地元の方々が生活道路や海岸を自由に利用できる権利を守ります。

第6条(歴史・文化の保護) 平久保半島の歴史と文化を継承し、その保護を通じて地域の文化遺産を守ります。

第7条(騒音対策) 平久保半島の自然環境と住民の生活環境を守るため、過度な騒音を発生させないよう取り組みます。

第8条(暴力団等の排除) 平久保半島の自然環境と景観保護活動において、暴力団およびその関係者の関与を一切排除します。地域の安全と安心を確保するために、関係機関と協力し暴力団等の排除を徹底します。

第9条(事業者の認定) 平久保半島の地域住民と共に平久保半島の自然環境保護に努める事業者やツアーガイドを認定します。認定制度を導入する事で地域に根付いた事業者を保護し、悪質な事業者の排除を徹底します。

第10条(水資源の確保) 平久保半島では今でも水道水と別に生活用水として使われている地下水資源があります。今後想定される大規模開発に伴う地下水資源の異常利用を阻止し、地下水資源を保護します。

主な活動や詳細は
公式WEBサイトをご覧ください



生きものの関わり方について

希少な野生生物と共存して暮らしていくために、彼らの生きかたや、守るべきルールを知りましょう。

カンムリワシ

人にとって便利な移動経路である道路は、カンムリワシにとっては食事の場。食事中に交通事故にあい、ケガをしたり、死んでしまうカンムリワシが跡を絶たない。法定速度を守り、ゆっくり車を走らせよう。詳しくは「カンムリワシ・リサーチ」のwebサイトに詳しい情報があります。



サンゴ

平久保半島の浅い海のサンゴたちは、オニヒトデの大発生や、たび重なる白化現象と直面しながら、懸命に生きてたくさんの生き物の礎になっている。触ったり、踏み付けたりせず、上手に観察しよう。詳しくは「米原海岸利用ルール」を検索してください。



西表石垣国立公園について

西表島、石垣島とその間に挟まれたサンゴ礁の海と島々からなる日本最南端の国立公園。平久保半島の多くの地域が本国立公園に指定されており、平久保崎の北に位置する大地離、嘉良川一帯や、平野、平久保、明石の地先の沿岸は特に保護すべき地域に指定されています。

国立公園内では許可や届出が必要な行為があります。ルールを活用し、平久保半島の景観や自然環境を維持していきましょう。

ヤシガニ

1kgの重さのヤシガニは約20歳といわれる。石垣島にはヤシガニ保護条例があり、平久保半島の一部が通年の捕獲禁止地区になっている。これからもヤシガニ料理を味わいつづけるためにも、ルールを知り、守っていこう。詳しくは「石垣市ヤシガニ保護条例」を検索してください。



そのほかのルールや参考情報

石垣市自然環境保全条例

石垣市では、市内で採集・損傷してはいけない生き物を103種指定しています。



沖縄外来種.com

外来種であるインドクジャクやオオヒキガエルが引き起こす問題を学び、人間と動物、自然が共存する方法を考えましょう。



観光の情報について

<作成中>



平久保半島 自然と暮らしの道しるべ

石垣島平久保半島インタープリテーション全体計画

管理	平久保半島自治協議会
協力	明石公民館、伊原間公民館、久宇良公民館、平野公民館、平久保公民館 意見交換会に参加いただいた皆さま 越智 正樹（琉球大学 国際地域創造学部 教授） 西村 仁志（広島修道大学 人間環境学部 教授） 一般社団法人八重山ビジターズビューロー 石垣市 企画部 観光文化課 環境省 沖縄奄美自然環境事務所 石垣自然保護官事務所
クリエイティブ ディレクション	山城 廉太（株式会社18project）
デザイン	仲村 綾莉（株式会社18project）
イラスト	朝倉 美枝（表紙、地図、ストーリーブック） 崎山 絵里子（はじめに、暮らしと文化のキーワード、自然のキーワード、生きものとの関わり方について）
写真提供	朝倉 美枝（海岸と漂着物）／伊原間公民館、掘井 太朗（歴史と催事） 久宇良公民館、掘井 太朗（昔の暮らし）／新垣 信成（夜と星空）／大堀 健司（その他）
製作	一般財団法人沖縄県環境科学センター 石垣島アウトフィッターユニオン

本冊子の骨子は、環境省事業「令和6年度石垣島北部地域インタープリテーション計画検討調査業務」で作成しました。